

秋におけるアルファルファの栽培管理

アルファルファは湿潤で酸性土壌が多い日本の条件下では作りにくい草種ですが、圃場条件や栽培管理方法によって本来の能力が発揮できれば、高い収量性と持続性が期待できます。これから秋にむけての季節は、アルファルファの管理にとって重要な時期となってきます。

播種当年の雑草対策

春に播種した草地は、これからギシギシが目立つ時期になります。除草剤「ハーモニー」はアルファルファ草地の播種当年利用が可能ですが、春播き草地に限られ、9月～10月中旬ぐらいまでが散布適期と思われまます。夏播き(8～9月上旬)草地の当年利用は初期生育が十分でないために薬害程度が大きく、越冬性が不良となりますので避けて下さい。春播き草地における10月下旬の散布は、地域と気象条件によって異なると思われまますが、当社北海道研究農場(夕張郡長沼町)における試験例を紹介すると、10月下旬に散布後、根雪前の11月はギシギシの葉に若干の赤褐変が確認できる程度であり、枯死には至りませんでした。融雪後の4月にはギシギシは完全に枯死しており、その効果を確認することができました。

ハーモニーはギシギシ対策としての利用が一般的ですが、更新年に多く発生するハコベに対しても利用が可能であり、当社北海道研究農場においてもその効果を確認しております。ハーモニーの殺草対象雑草は表1のとおりです。

秋の刈り取りについて

9月下旬から10月上旬にかけての時期はアルファルファが越冬のための貯蔵養分を蓄える時期「刈り取り危険帯」にあたり(図1)、この時期の収穫はアルファルファの越冬性を低下させ、生存株数や翌春の1番草収量の低下につながります。特に播種当年は株を充実させることに重点をおくため、5月播種の場合は刈り取り危険帯を避けた年2回刈り、播種が遅れた場合(6月に入ってからの播種)は危険帯を避けた1回刈り、夏播きの場合は刈り取りを行わずに越冬させることがポイントになります。アルファルファの刈り取りスケジュールの例を図2に示しました。危険帯以降の晩秋の刈り取りは頭を悩ますところですが、膝下ぐらいの草丈(50cm以下)であれば、刈り取らずに越冬させた

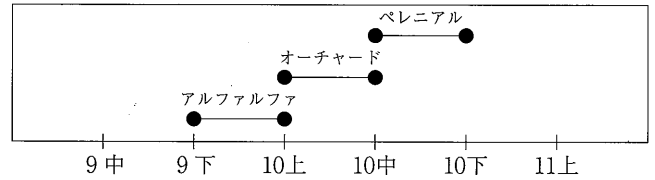


図1. 刈り取り危険帯の目安

図2. アルファルファの刈り取りスケジュール(目安)

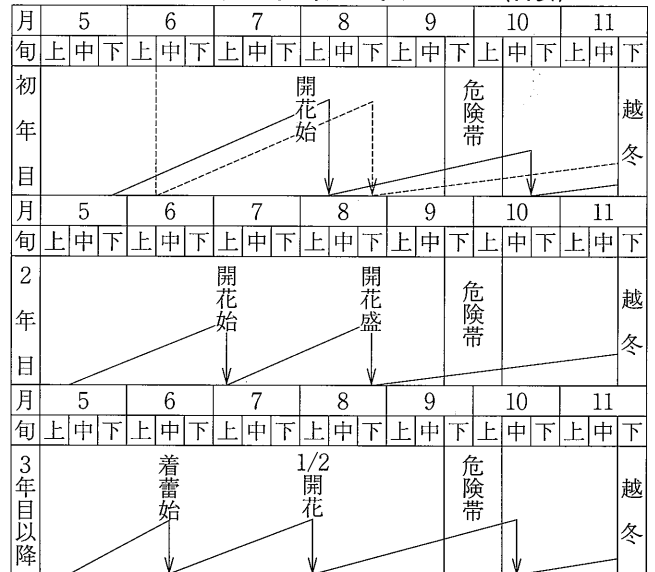


図3. アルファルファ混播例(一握り)

草種	品種名	播種量(kg/10a)
チモシー	ホライズン	2.0
アカクロバ	マキミドリ	0.2
シロクロバ	リベンデル	0.1
アルファルファ	SBA9801	0.2
合計		2.5

ほうが翌年以降の生育は良くなります。

一握りのアルファルファ

なかなか大規模の作付けには踏み込みにくいアルファルファですが、アルファルファ主体草地を試みる前に通常のイネ科主体混播にアルファルファを一握り加え、生育の良否を確認してみたいかでしょうか? 混播例を図3に示しました。圃場の条件が良好であれば、少ない播種量でも優占して生育する場合があります。また、ハーモニーが使えない理由からクロバ類を混播せずにイネ科単播で播種する方もおりますが、アルファルファはハーモニーの散布が可能ですので、クロバ類の代わりに混播してみたいかでしょうか? (北研 谷津)

表1. ハーモニーの殺草対象雑草(ハーモニー技術資料より転用)

雑草名	評価	雑草名	評価
ハコベ	◎	ギシギシ類	◎
シロザ(アカザ)	○	オオバコ	△
タデ類	◎	タンポポ類	△
ナタネ	◎	フキ	△
イヌビユ	◎	ヨモギ類	△
ノボロギク	◎	ワラビ	△
ナズナ	○～△	オニノゲシ	—
スカシタゴボウ	○～△	ヤチイヌガラシ	—
タビラコ類	△	アザミ類	—
イヌホオズキ	△		
イヌノフグリ	◎		
アメリカオニアザミ	—		

(評価) ◎極大 ○大 △黄化抑制、枯死せず ×効果なし ー未確認
注1) 薬量は10アール当たり3～5g、雑草の生育盛期に処理した評価。
注2) 除草効果は処理時期や、雑草の生育ステージによって変わることがある。

雪印種苗株式会社

編集発行人 城座 勝明
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL(011)891-5911

FAX(011)891-5774